

抑制物質陽性例に対する装具療法

No	氏名	型	装着時 年齢(才)	罹患 関節	装着の 種類	装着 期間(月)	出血頻度		X線像分類	
							前(回/月)	後(回/月)	前	後
1.	N.S.	A	10	Rt.K.	LLB	18	4	0	ⅢB	ⅢB
2.	S.Y.	A	5	Lt.K.	LLB	13	4	0	I	?
3.	K.M.	A	7	Rt.A.	SLB	20	2	0	ⅢA	ⅢA
			7	Lt.A.	SLB	20	0.01 (2x/7y)	0	ⅢA	ⅢA
4.	Y.H.	A	5	Rt.A.	SLB	13	4	0	I	I
5.	K.S.	B	6	Lt.A.	SLB	16	4	0	I	I
6.	H.D.	B	3	Lt.A.	SLB	20	2	0.6 (10x/17M)	I	ⅢA

(注) K…膝関節, A…足関節

血友病A患者の各種出血症状に対する  
第Ⅷ因子濃縮剤の高単位輸注効果

奈良県立医科大学小児科

福 井 弘  
吉 岡 章  
三 上 昭  
高 瀬 貞  
藤 村 俊  
三 村 吉  
          良  
          明

「目 的」

血友病Aの各種出血症状に対し、第Ⅷ因子濃縮剤を投与して血中第Ⅷ因子活性を正常人と同様のレベルに上昇、維持せしめた場合の止血効果について検討した。

「対象及び方法」

血友病A 19例の筋血腫、消化管出血、血尿、抜歯、創出血などに第Ⅷ因子濃縮剤(Conco-

eight、Koate、Kryobulim、Hemofil 或いは Confact 8) 50 U/Kg前後を1回輸注、又、8例の大外科手術に始回50 U/Kg、以後25~50 U/Kg 1回連日投与して止血効果、第Ⅷ因子活性の推移を観察した。

#### 「成績」

1. 第Ⅷ因子濃縮剤投与による血友病A患者血中の第Ⅷ因子活性(VⅢ:C)、第Ⅷ因子関連抗原(VⅢR:AG)、von Willebrand因子活性(VⅢR:WF)の推移:10例の重症血友病A患者に第Ⅷ因子濃縮剤をそれぞれ50 U、25 U、10 U/Kg 1回輸注すると、VⅢ:Cは30~45分後、平均100%、50%、20%となり、以後漸次下降し、12時間で45%、20%、8%、24時間で20%、8%、3%、48時間後6%、1%、<1%となり、VⅢ:Cの第Ⅱ相半減期は9~11時間であった。

VⅢR:AGは30分後ピークに達し、4~5日で前値に復し、半減期は24時間であった。

VⅢR:WFの第Ⅰ相半減期4時間、第Ⅱ相14時間で24時間後前値に復した。血中フィブリノゲンの上昇は軽度で400 mg/dlをこえる例はなかった。

2. 第Ⅷ因子濃縮剤による血友病A各種出血症状に対する出血管理:筋肉出血、消化管出血、血尿、創傷出血、抜歯などに50 U/Kg前後の1回輸注を行ない、24時間内に止血せしめえた。

中垂切除、腎筋血腫摘出術、アキレス腱延長術、膝足関節の人工関節置換術などに100%前後上昇維持を目標に1日1回1週前後輸注を行ったが、いずれも異常出血なく、術後良好な経過をたどった(表1)。

#### 「考察」

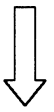
第Ⅷ因子濃縮剤の50 U/Kg輸注は、患者血中VⅢ:Cを100%前後に上昇。24時間後も20%前後に保持しうるので、出血症状の早期より高単位を1日1回輸注すれば止血に有効で、使用量は従来の方法より減少するのであろう。

表1. 血友病A患者の各種出血に対する第Ⅷ因子濃縮製剤の高単位輸注効果

適応出血症状	症例(番号)	初回輸注量(U/Kg)	後続輸注(U/Kg)	全輸注量(U)	出血症状消失までの期間	第Ⅷ因子活性最高上昇(%)	第Ⅷ因子活性上昇(%)
腹筋血腫	45	45	-	1,620	24時間	65	144
腸腰筋血腫	90	50	-	3,000	24時間	75	150
消化管出血	3	50	-	2,500	24時間	100	200
血尿	36	50	-	2,450	24時間	100	200
	90	42	-	2,400	24時間	80	190
	114	41	-	2,000	12時間	80	195
	125	43.5	-	3,200	4時間	100	190
	152	50	50(48時間後)	4,000	12時間	100	200
	221	57	50(48時間後)	2,690	12時間	100	175
	114	48	48(48時間後)	5,000	12時間	100	208
	107	49	49(48時間後)	5,000	12時間	74	151
	107	48	48(48時間後)	4,500	24時間	98	200
	252	56	-	2,800	2時間	112	200
	23	38	-	2,200	出血なし	58	152
	31	41	-	2,500	出血なし	85	200
	126	43.5	-	1,520	出血なし	100	228
	182	48	-	1,250	出血なし	86	178
	216	54.3	-	1,250	出血なし	90	166
	50	60	-	3,000	出血なし	86	179
創傷清拭・縫合							
腸腰筋血腫	113	50	50×1日・30×4日	11,000	24時間	103	206
虫垂切除術	288	57	57×1日・23×5日	5,000	出血なし	100	175
筋血腫除去	170	58.5	58.5×2日・39×6日	25,000	出血なし	97	166
アキレス腱延長	258	62.5	50×1日・30×7日	13,750	出血なし	114	183
膝関節内テフロン膜除去	194	50	50×1日・25×6日	12,500	出血なし	105	210
膝関節滑膜切除術	194	50	50×2×1日・50×5日・25×8日	27,500	出血なし	105	206
膝関節滑膜切除術	286	50	50×2×1日・50×2日・25×6日	21,250	出血なし	75	150
膝及び足関節人工関節置換術	260	51	21×2×1.5日・21×6日・10×2日	15,380	出血なし	100	200



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



「目的」血友病 A の各種出血症状に対し、第 Ⅷ 因子濃縮剤を投与して血中第 Ⅷ 因子活性を正常人と同様のレベルに上昇、維持せしめた場合の止血効果について検討した。